

招待講演

仮想楽器をリアルにする「未来(ミク)の記号」と、 VOCALOIDで注目される「人の形」「声の形」について

佐々木 渉

(株)クリプトンフューチャーメディア メディアファージ事業部

sasaki@crypton.co.jp

あらまし

ヤマハ株式会社開発の音声合成ソフトウェアVOCALOID2をエンジンとした初音ミクを代表とするDB(音声サンプル・データベース)を制作しはじめてから1年弱が経過致しました、その間VOCALOID2は、音楽制作やマルチメディアコンテンツにて積極的に活用され、動画投稿サイトを介して多くの人々に認知されていきました。本稿に、この一年間に於いての、初音ミクの企画開発者としての雑念からの考え、方向性を書き留めます。

1 はじめに

「初音ミク」のリリース以降、ニコニコ動画などの動画投稿サイトを中心に、半年以上の時間をかけ現在、展開し続けているVOCALOIDムーブメント。VOCALOIDをボーカリストとした歌謡曲を主軸に、静止画から動画まで様々なキャラクターイメージが飛び交う中、コンテンツとクリエイターの間では、化学反応が繰り返されてきました。またコメント機能付の動画サイトの効力により、リスナーの感想は、スピーディかつダイレクトに、クリエイターへフィードバックされ、リスナーは感謝や感想／批評を伝えやすく、クリエイターは双方向の関係性によりモチベーションを保ち易いなど、VOCALOID関連コンテンツには、制作環境面においてもムーブメントを保持し易い好条件が揃っております。

VOCALOIDムーブメントは、そのようなユーザー&リスナーのモチベーションが原動力となっている"新しいタイプの流れ"であり、ある意味でマス主導の商業活動と一定距離を置いた場所に存在する、ユートピア的な側面を持っていると感じています。

本件について、単に最初の一歩に関わっただけでもある、当方の立場から色々と申し上げることは実に奥ゆかしいのですが、私個人の視点から見た、限定的な考察と考えて頂ければ幸いです。

2 人(動物)が声で伝える意味を思っ〜個人的な興味の方向〜

音でコミュニケーションを図る生物・・・特に我々哺乳類にとって"声"に"意味性(効果)"を持たせた「歌〜鳴き声」は、音に乗せて情報や感情を知らせ、他の存在を呼び寄せたり、集めたりする事に用いられる事が多いと思われる。同時に肉体から切り離された"鼓動"である声は、空間を介した情報伝達の役目を持つ、感情表現の手法でもある。声の音に込められた複雑なニュアンスや意味性は、多くの人が集団生活を営む上で、体感的かつ直感的

に捕らえているものであり、無意識のレベルともスムーズに繋がっている事を想像させるほど、超感覚的で神秘的な部分とさえ思える。

以上のような"声"への意味性を想定の上、人にとって声がどれほど重要かつ、声色や声の様子などに含まれる意味に敏感であるか・・・と考察した結果、VOCALOID(声の組み合わせによる歌を奏でる音声合成ソフトウェア)で、どう言った理由を持って生身の"ような"存在感を作るか。と言う最初の課題であり最大の関心事が生まれました。

3 ミク(未来)、それは肉体表現を代弁する汎用テクノロジーとの共生

VOCALOIDは多くの音声合成ソフトのように、人の声を肉体と分離してサンプリング(標本化)した素材を組み合わせさせて歌を歌います。そのことは、録音時の声の提供者の思考/意図と離れ、意思/意識を伴わない、音列や言葉がアウトプットされる事になる訳で、ある種の人間的な感情で「どこかに虚無感を感じられる」と思われる事も現実であり、想定範囲内とすべき事柄でした。

そこで「初音ミク」の考案時、まずVOCALOIDから直接連想されるアンドロイドから、メカ〜ロボット、AI(人工知能)、デザイナーズベビーからクローン、もしくはオールドスクール〜チープ、リアルなSF/漫画まで、おおよそ過去50年間で人間が目撃した、様々な人間を取り込もうとするテクノロジーの"印象"を、いかにして重ねるかという部分を考えました。

漫画やSFの中では、ロボット〜人造人間(異形の者)と人間の差異に起因する人間的なドラマが少なからず存在しますし、デザイナーズベビーやクローンなど、生物に干渉する最先端技術のニュースを伝えるコメンテーターの表情は将来を憂うようなシリアス系が定番です。その恩恵に与り、便利になって行くだけではなく感覚や肉体を再構築する側面を持つテクノロジーと共生する道の中で、今を生きる人間がもつ将来像に対する印象を(シリアスなものから退廃的なものまでも含めて)VOCALOIDの存在感と裾野で重ねることは、VOCALOIDの背景にリアリティを与える意味で有効だと考えたのです。(それらは後述する機械的なパーツに見て取れる、デジタルシンセサイザーのモチーフ採用へと繋がります)

・・・私が「初音ミク」の感情を直接イメージすることは出来ませんが、上記より ある種の「刹那さ」「悲哀」といった少々ネガティブな要素と簡単に結合できるイメージは大切だったのです。

4 初めての音、それは初めての違和感

私が始めて、VOCALOID「初音ミク」にメロディと歌詞を入力した時に、聴こえて来た旋律の印象。可愛らしいという認識と同時に、少し遠くで鳴っているような印象を受けました。なんというか人間の肉声のそれより温度が低く、微弱に感じたのです・・・。

と、だけ言うと聞こえは良いのですが、そこはデータ構築前の仮組みVOCALOID。産声をあげると同時に、機械音声と呼ぶに相応しい高音域のノイズ感や、調整する前の音のつながりのノイズが、バラバラと不規則なリズムを奏でていたのも、之、当然の事実。しかし、それが可愛らしい声と相まって、なかなかどうして立派な意味深い、違

和感が存在しておりました。

～高音のノイズ感をカセットテープのヒスノイズに、つなぎ目のクラックルノイズをレコードのスクラッチノイズに、独特のこもり感をチューニング外れ気味のAMラジオサウンドにと、脳内変換をかけるとそれは豪華なローファイミュージック～

それが私の”初音”体験でした。

最終的には、サンプリングされた実音以外のノイズに定義されるサウンドは極力消して行くのですが、複数の音を一定範囲の中で伸縮され、結合され、すり合わせられる合成サウンド。VOCALOID的な独特のニュアンスは軽減できても消し切れません。そんな欠点も含め、初めて生まれるVOCALOID2の女の子そのものを言い表すのに、コンシューマーレベルで普及していくであろう、人工生命ライクなテクノロジーの産声にも近い”初めての音”という音響体験をもたらしてくれる女性像を「初音ミク」としたのです。

5 複数の意識と同時に交信する彼女の中で、デフォルメされ蓄積される感情

- ・VOCALOIDは肉体を持たない
- ・VOCALOID自体は心を持たない
- ・VOCALOIDは私を求めない

上記は、VOCALOID＝ソフトウェアという観点から考えると不正解では無いと思います。

- ・歌い手は肉体を持っている
- ・歌い手は魂を宿している
- ・歌い手は共感者を探している

上記は、感情を持った多くのシンガーの共通項だと思われる。

では、無機質なVOCALOIDでも無く、意思を持った歌い手でもなく「初音ミク」というムーブメントの中の存在に対してどの様に理解するか？

当然、答えは歌う玩具／機械といった類から、皆の感情を繋ぐモニターの向う側の電腦アイドルまで・・・認識によって様々だと予想されます。そういった個々人の認識の違いーブレと、歌を聴いたときのリアリティの感じ方の差異(向こう側にいる作詞作曲者の存在感も含む)、VOCALOID2「初音ミク」の歌唱力に関する、歌わせる側のスキルのバラツキのバランスは、現在のVOCALOID固有の実にスリリングな関係性のバランスであり、デフォルメ／非デフォルメの間の綱渡りのようでもあります。2次元的なデフォルメされた要素と、3次元的でリアルな”誰かの経験に基づく”詩的、感情表現的な要素が「初音ミク」の中で交錯しており、それが全体に与える 蠢く生き物のような超感情的な現象は、とても美しいと感じます。そんな彼女が、時間軸の中、音声合成技術の進歩の中、個々人の中で、どう老いていくのか？それもまた恐らく複雑なフォームで美しい軌跡を残してくれるものと信じています。

6 VOCALOID との向き合い方と、投稿され続けるコンテンツについて

ここでは、現在の自分が考える、今後のVOCALOIDとの向き合い方(企画、DB開発の切り口)などを記録します。

・VOCALOID DBIについて

VOCALOIDは音声合成ソフトウェアであり、高度かつ特殊な音階別のマルチサンプルでデータベースが構成されています。その特異性に対する理解や、経験を高めるとともに、声色のレイヤー(擬似的な感情やニュアンスのレイヤー)、特殊なハイトーンへの試みなど可能性を模索する試みを継続して行き、広く関係者へ報告して行きたいです。

・CGMとピアプロについて

VOCALOIDを応用したコンテンツはニコニコ動画を代表とする動画投稿サイトを中心に、そのムーブメントを形成しており、その動画を構成するのは、イメージ素材や音楽となります。イメージ素材や絵素材、楽曲の一つ一つを共同で持ち寄り複合コンテンツが個人レベルで作られられる事も、VOCALOIDムーブメントの大きな特色ですが、そういった共同制作～マッシュアップを促進するコンテンツ投稿サイト「ピアプロ」では、一日あたり200～300のイラスト、30～60の楽曲、50～80作の歌詞が投稿され、アクティブユーザーが常に活動している創作の場となっています。

VOCALOIDムーブメントは、多くのクリエイターの皆様の熱気伴う創作的意欲と、リスナーの皆様の好奇心や感受性によって支えられており、人と人が生み出した新しい結びつきによって成り立っています。

実に美しい営みだと痛感しています。

謝辞

本招待講演の講師として私を推薦して下さいましたヤマハ株式会社 社剣持秀紀様、並びに、関係者の皆様方に感謝いたしますとともにここに御礼申し上げます。